

目次

[令和5年度](#)

令和5年度

義妹・幸子が令和2年3月10日に亡くなった。サリンの被害で重度障害者となり、寝たきりの25年間だった。自宅介護だったから、支援を受けながらも、家事、育児、仕事に追われたが、義妹が好きだった温泉旅行に連れて行けば良かったと、今さらながら後悔も残る。

義妹は親思いでやさしく、私にも気を遣い、子供達には愛しみを注いでくれていた。こんなことがあった。

事件が起きる少し前、息子は、夫の実家の近くの小学校に入学することになった。私の仕事が終わるまで、実家で預かってもらうのだが、実家にいた義妹は息子の好物を作ってあげたいと、わざわざレシピ本を購入していたのだった。その直後に事件が起きたので、レシピ本が使われることは一度もなかった。

義妹が被害に遭ったのは、「あの日、あの地下鉄に乗ったから」ではなく、オウム真理教の教祖と信者たちが地下鉄に殺人兵器サリンを撒くという無差別テロを起こしたからだ。絶対に許せないし、過去の終わった事件にもさせたくない。

(令和5年11月1日記)